

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日

平成19年9月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2871000473		
法人名	(株)メデカジャパン		
事業所名	芦屋ケアセンターそよ風		
所在地	芦屋市松浜町13-18 (電話)0797-25-1732		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年7月31日	評価確定日	平成19年10月15日

【情報提供票より】 (19年7月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	28 人	常勤 19人, 非常勤 10人, 常勤換算 24,7人	

(2) 建物概要

建物構造	耐火構造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	93,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(186,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	200 円	昼食 450 円
	夕食	円	おやつ 300 円
	または1日当たり	1,500 円	

(4) 利用者の概要 (月 日現在)

利用者人数	27 名	男性	2 名	女性	25 名
要介護1	8	要介護2	5		
要介護3	7	要介護4	4		
要介護5	2	要支援2	1		
年齢	平均 89 歳	最低	81 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野村医院・戸島歯科・南あしや浜病院
---------	-------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

「私たちは、高齢者社会で果たす役割の重大性を自覚し、明るく元気ですこやかなヒューマンライフを支えます」という法人の基本理念の下、事業所独自の理念を掲げ、入居者に対し『敬いの心』を持って接することを心がけている。地域や家族との関係を大切に、地域の人々に理解されるよう職員一同心がけ、地域に根付き溶け込む様日々努力している事業所である。また行政との関わりにも積極的に取り組もうとする姿勢が見られる。かかりつけ医・協力医療機関等との連携が取れており、入居者の日々の健康管理や急変時の迅速な対応が可能である。昨年の第三者評価に対する取り組み・改善も良好で、サービスの質の向上につなげている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 前回の評価をサービス見直しの機会として捉え、職員全員で改善に向けて取り組んでいる。介護計画やその見直し、介護記録について検討し改善されている。研修においては年間計画で実施されており、口腔内の清潔に関して口腔ケアが習慣化する取り組みを行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 管理者・職員の評価に対する姿勢が前向きであり、職員一人ひとりが自己評価の意義や狙いについて理解した上で全項目について個々に点検し、サービスの質の向上に活かす努力をしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 現在のところ開催されていないが、今年の8月に地域包括支援センター職員・自治会長・民生委員・入居者の家族等のメンバー構成により開催予定である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族の来訪時にきめ細かい情報提供を行い、記録に目を通してもらっている。面会に来られない家族には電話や郵送で報告している。面会時には家族が意見や不満等を伝えられるような雰囲気作りを心がけている。また、重要事項説明書に「サービス内容に関する相談・苦情窓口」の欄を明記している。家族の率直な意見等は速やかに会社に連絡し、ミーティングや記録で全スタッフに報告し、改善に向けて話し合い、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 自治会への加入や老人会での会議室の提供、地域の情報提供のためにホーム前に掲示板の設置を行なっている。またボランティアに来ていただく等積極的に地域との関わりを深めている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割をとらえた法人の基本理念を下に、入居者に対し『敬いの心』を持って共に暮らすこと等を方針とする独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は毎日の朝礼時に理念を全員で唱和し、日常的に理念の具体化に向けて努力を重ねている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し廃品回収に参加している。老人会の集会のために会議室を提供し、近隣からの要望でホームの前に掲示板を設置し、ホーム内の情報のみならず、幼稚園や消防署等の情報も掲示している。また、地域のボランティアの方々にフラダンスや日本舞踊、夏祭りの踊りの指導等に来て頂いたり、家族によるピアノやチェロのコンサートを開催する等、積極的に地域や家族との関わりを深め、地域の人々に理解が得られるよう努力している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者の評価に対する姿勢が前向きであり、外部評価の結果は職員全員で確認しあい、振り返りや見直しを行っている。自己評価は職員一人ひとりが全項目について個々に点検し、サービスの質の確保・向上につなげている。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>現在のところ、運営推進会議は行われていない。</p>		<p>近日中に運営推進会議を地域包括支援センター、自治会、民生委員、家族等参加の下、行う予定となっている。今後の定期的な開催が望まれる。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者と報告・連絡・相談を頻繁に行い、市の考えを傾聴し、意見交換や適切な指導を受けながらサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時に、きめ細かい情報提供を行い、全ての記録に目を通してもらっている。遠方であったり面会に来られない家族には、電話や郵送で報告している。緊急時には電話等で速やかに家族へ連絡をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組みんでいることも含む)
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族が意見や不満等を伝えられるような雰囲気作りを心がけている。また、重要事項説明書に「サービス内容に関する相談・苦情窓口」の欄を記載し、フリーダイヤルで法人の「介護なんでも相談室」に相談できる取り組みがある。家族の率直な意見等は速やかに会社に連絡すると共に、ミーティングや記録で全スタッフに報告し、改善に向け話し合い、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職がある場合は、引継ぎを丁寧に行い、時期をずらす等、入居者への影響を最小限に抑えるよう努力している。		職員の離職・異動に関しては、入居者・家族の不安を最小限にするために、家族への説明や入居者への対応等を検討し、その都度周囲に与える影響に配慮することが望まれる。
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、法人研修は年間計画として月に一回程度ある。また、職員のキャリアや力量に応じて外部研修を受講している。研修内容の掲示をし、参加者の募集を募っている。助成金制度がある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在のところ同業者との交流はほとんどない。		地域の同業者と交流する機会を設ける計画が進んでおり、9月に発足・加盟予定である。交換研修等の提案も出されているため前向きに検討している。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前にホームに見学に来て頂き、食事やおやつを共にしたり、自宅を訪問するなど、徐々にホームの雰囲気に馴染んで頂けるよう取り組んでいる。また、入居時の面接では利用者・家族の意向を十分に把握するように努めている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の趣味や生活歴・力量等を把握し、料理・掃除・園芸等の役割への取り組みを支援している。日々の生活の中で入居者の会話を傾聴し、感情を共有することにより、寄り添い・支え合いながら共に生活する者としての関係を築いている。習字やちぎり絵の先生であった入居者が他の入居者に教えてあげたり、職員に料理を教える等の場面があり、自信の回復につなげている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時の面談で利用者・家族の思いや意向を十分に把握するよう努めている。入居後も普段の会話や顔の表情、また筆談等で一人ひとりの思いを汲み取り、把握するよう取り組んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族より情報提供された内容やかかりつけ医の意見を参考に職員間でアセスメントし、介護支援専門員または計画作成担当者によりケアプランを作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアプランは通常3ヶ月に1回定期的に見直しを実施している。入居者の心身の変化や本人・家族の希望に応じて介護支援専門員の参加の下、随時カンファレンスが行われ、現状にあったケアプランの見直しを行っている。毎月のケアプランに沿って各項目のサービス内容を各勤務帯で確認し、×式で記入し、できていない項目や時間帯が一目で分かる『サービス経過記録表』を利用し検討・見直しが行われている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者・家族の状況に応じて、通院支援や入退院時の送迎等を行い、個々の満足を高めるよう努力している。</p> <p>近々看護師が入職予定であり、医療連携体制を整え日常での健康面への細やかな配慮と共に、重度化した場合でも入居者や家族の要望に沿った支援ができるよう取り組む姿勢がある。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医による月2回の往診と共に、緊急時にも受診できる体制が整っている。また、かかりつけ医による協力医療機関への連携も整っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時、家族等に重度化した場合や終末期に向けての対応のあり方について話し合い、同意書ももらっている。また、入居者や家族、ホーム側の状況の変化の度にかかりつけ医のアドバイスを受けながら話し合いを繰り返し対応方針の統一を図りながら、終末期に向けたケアを実践している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は入居者の誇りやプライバシーに配慮し、その人にあった言葉かけやさりげない介助を心掛けている。入社時に職員は個人情報に関して誓約書を交わし、入居者の個人記録等は事務所で管理している。契約書等に秘密保持について明示し家族に説明している。職員の意識を高める為に、個人情報保護法についての資料が閲覧できるよう配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の自由な暮らしを支援することを目指している。1日の流れは入居者のペースを尊重し、起床や食事の時間等は柔軟に対応する事を心がけている。日々の会話の中で入居者の思いや意向を把握するよう努め、日々のアクティビティ等は個々の希望に沿って参加を促している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立・食材搬入は法人を通じて行われているが、入居者個々の力量等に応じて食事の準備や後片付けなどは職員と共に行っている。個々の好みに配慮し変更する場合もあり、状況に応じて、きざみ食・ミキサー食の対応も可能である。月に1回は外食を取り入れ食事の楽しみに変化を持たせている。職員は入居者と一緒に食事し、さりげなく見守り、食べこぼし等の支援を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個浴での対応と共に、浴槽が2つある為入居者同士での入浴希望にも応じる事が可能である。入浴前のバイタルチェックや心身の状況の変化によって入浴の可否を見極め、入浴中は羞恥心等に配慮した見守りを行っている。入浴拒否傾向のある人へは個々にあった声かけや対応を心がけ、職員間で協力して取り組んでいる。		入居者の習慣や好み等で夜間入浴の希望がある場合は、職員ローテーションや配置の工夫等勤務体制を検討することが望ましい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者主体の役割や楽しみ事への支援ができるよう、個々の経験や趣味を把握するよう努めている。食事の後片付け・居室の掃除・洗濯物たたみ等役割の場を提供している。1日の流れの中でのレクリエーションや、定期的な楽しみ事としてボランティアの協力も得てピアノの演奏会・日本舞踊・アニマルセラピー等実施し、入居者の意向に沿って参加を促している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎年実施している日帰り旅行や5年に1回実施している1泊旅行の他に、日常でも定期的にドライブや外食等外出の機会があり車椅子での対応が可能である。近隣への散歩や外出はなるべく個々の希望に沿えるよう個別対応も行っている。		心身の機能低下防止や地域との交流を深める為に、日々の生活の中での入居者の散歩や外出の希望に沿える様、職員の勤務体制の調整や日常業務での工夫が望ましい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の事故防止等に配慮し、玄関は電子ロックでの開閉でエレベーターは一部利用制限を設けているが、施錠等に関しては家族に説明し同意を得ている。日中の施錠をなくす為の試みとして、1日の中で数時間玄関を開放し、入居者は自由に出入りし玄関前で職員とともに土いじりや草花の世話を楽しむ等取り組んでいる。		施錠を含む身体拘束について職員が再認識し改善策を見出していく為の学習会を検討している。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力で入居者も加わった定期的な消防訓練ができており、近隣の協力も得られる状況になってきている。災害時に備えて法人内で食料品等の備蓄ができています。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりの食事や水分摂取量を記録し、排泄との関連性の把握により健康管理の参考にしている。誕生会や月に1回程度は入居者の意向に沿ったメニューに変更する取り組みがある。入居者の嗜好を把握し食材を変更する等柔軟な対応やカロリー制限に対する配慮がある。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は木目を使用し、ぬくもりを感じさせる環境を整え、リビングにはテーブルやゆったりとしたソファ、落ち着いた雰囲気の置のコーナーがあり、入居者はそれぞれのスタイルで思い思いにくつろいでいる。ホーム内の各箇所に季節の花を飾り、さりげなく入居者の作品を掲示している。外からの日差しや照明による光の刺激が適度になるよう配慮し、空調管理は適切な調整がなされている。近々行われる夏祭りに向けて入居者と共に飾りつけの作品を作成し、四季の変化が身近に感じられるよう配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人と相談し、意向に沿って慣れ親しんだ物品を持ち込んでいる。仏壇や本人が作った刺繍のクッション・壁飾り等馴染みの物を活かして一人ひとりの個性を大切にした空間となっている。居室の表札は写真・本人の作品・好きな絵等を一緒に飾り場所の誤認を防いでいる。		

は、重点項目。